

避難時の行動

いざという時のために、日頃から避難の準備を行い、避難の手順について話し合っておきましょう。

状況により、すばやく避難行動を



避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

非常持ち出し品は最小限に



非常持ち出し品（貴重品、食料、衣類、日用品など）は、必要最小限のものにまとめてリュックサックにしまいましょう。両手が自由に使えるようにしましょう。

車での避難は控える



車は、約30cmの浸水で走行困難になります。また、水圧で扉が開かなくなることもあります。徒歩での移動を心がけましょう。

安全なルートで避難する



川沿いや橋、がけ下などは危険です。近くを通らないように、できるだけ安全なルートで避難しましょう。

避難時の歩き方



できるだけ浸水していない道を通るようにしましょう。浸水している道を通るなら、マンホールや側溝に気を付けましょう。蓋が開いている可能性もあります。

動きやすい服装で避難する



できるだけ動きやすい服装で、両手は自由になるようにしましょう。靴は運動靴にしましょう。長靴は水が入ると重くなり危険です。また、スリッパ・サンダルも脱げやすく危険です。

集団で助け合う



単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。高齢者や小さな子ども、病人などは早めの避難が必要です。皆さんの協力をお願いします。

避難中や避難施設では指示に従う



避難中や避難施設では、警察・消防・自主防災組織リーダーなどの指示に従って行動しましょう。独断での行動は大変危険です。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動は極力避けなければいけません。そのような場合は、避難所への移動（水平避難）だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い救助を待つという判断も必要です。



無理な避難行動



避難所への避難（水平避難）



高所への避難（垂直避難）

急な天気の変化から身を守る

天気の急変の原因は「積乱雲」（せきらんうん）という雲です。発達した積乱雲は、時に「急な大雨」「雷」「ひょう」「竜巻」などの激しい現象を引き起こし、これらによって毎年のように死傷事故が起きています。



発達した積乱雲の外観

右図の内容は、これらの事故を防ぐために、チェックするべきこと、とるべき行動をまとめています。しっかりと役立てましょう。

こんな変化を感じたら、それは積乱雲（入道雲）が近づいてくるしるしです。まもなく、激しい雨と雷がやって来ます。たつまきがおそってくるかもしれません。

真っ黒い雲が近づいてきた
雷の音が聞こえてきた
急につめたい風が吹いてきた

すぐに危険な場所からはなれ、安全な場所にひなんしましょう！

激しい雨の中を歩くのは危険。しばらく雨宿り！
雷が落ちたり、突風でボールが吹き飛ばされたりします。建物の中に入って！
あっという間に水かさが増え、流れが激しくなります。川のそばからはなれて！
木に落ちた雷で感電することがあります。木のそばからはなれて！

しばらくの間、じょうぶな建物の中で、身を守りましょう。

出典：気象庁ホームページ